

社団法人私立大学情報教育協会

平成 21 年度第 3 回 CCC 芸術系グループ運営委員会議事概要

- I. 日 時： 平成 21 年 7 月 23 日（木） 午前 11 時から午後 1 時まで
- II. 場 所： 私情協事務局会議室
- III. 出席者： 井澤委員、久原委員、有馬委員、小川委員(ネット参加)、宮田委員(ネット参加)
私情協：井端事務局長、森下主幹、山野上係長

IV. 検討事項

1. 芸術系教育学士力詳細について

(1) 学士力第 2 項について

前回に引き続き座長は井澤委員とし、学士力の詳細について第 2 項(感性に関する事柄)から検討を行ったところ次のような意見があった。

- ・ 芸術作品から感じ取った美しさを自己のものとして再構築できることが重要ではないか。
- ・ 美的感覚や感受性は大学の教育によりかなりの部分培うことができるということが前提であるべきだ。
- ・ 小中高校の学習指導要領に則って大学の芸術教育を規定しないと混乱してしまわないか。
- ・ 美意識は人それぞれ異なる。美しさを感じるだけではなく、その思いを吐き出させ、他者を感じさせることまで求められるのではないか。文言として「芸術性」という語を盛り込んでどうか。
- ・ 芸術性を感じ取ったことについて、論評や説明させることでどこまで理解しているかは測定ができる。「芸術性を感じ取り説明することができる」とすればよいのではないか。
- ・ 説明できなくても表現できればよいのではないか？という意見があるが、表現といえば客観的な形で表すことであり、説明、作品いずれも含まれる。また、「説明する」という表現を「伝達する」とすればどうか。
- ・ 美大出身者に求められるのはオリジナリティである。「独創的に・・・」という表現を入れてどうか。

以上の意見を踏まえて学士力第 2 項は次のように決定した。

2. 美的感覚、感受性に富み、独創的な表現により他者に感動を与えることができる。

- ・ 芸術作品を理解できるだけでなく、様々な現象の中に潜在する芸術性を理解し、伝達することができる。
- ・ 美術・デザインの芸術性を他者が感じ取ることができるよう、独創的に表現することができる。

(2) 学士力第 3 項について

本項では、理論と専門の技術の統合、社会での活用について詳細検討を行ったところ次のような意見があった。

- ・ 専門の技術として、まず構成力を挙げ、次にその詳細を列挙する形をとってはどうか。
- ・ 各専門分野に必要な技術力としてデッサン力、アートプログラミング力などを取り上げてはどうか。

- ・ 専門の理論としては従来の美学、美術史、デザイン学等のほか、メディアアートなどの理論も含めてはどうか。
- ・ 「芸術系分野」と表現を幅広く持たせていただくが、芸術というと音楽やアニメ、ゲーム等も含まれてくるため、現在の委員構成で対応できる範囲として「美術・デザイン系分野」に限定して表現を改めた。（注：なお、この件については次の議題を参照されたい）
- ・ 社会への参画として、作品の積極的な公開、コンペへの参加、企業との連携について言及してはどうか。

以上を踏まえて学士力第3項は次のように決定した。

3. 美術・デザイン系分野における専門の理論と技術を統合し、社会の中で活用できる。

専門の技術とは、以下のとおりである。

- ・ 形体、色彩、平面、立体、企画、演出、調和、時間などの構成力
- ・ デッサン力、アートプログラミング力などの各専門分野に必要な技術力

専門の理論とは以下のとおりである。

- ・ 美学、美術史、芸術学をはじめとして色彩学、デザイン学、造形理論、メディアアートなどの美術・デザイン分野の理論

上記の専門の理論と技術を活用して、例えば、作品のインターネット公開、コンペティションへの参加、展覧会での作品発表、企業と連携した作品の製品化など、社会との接点に参画することができる。

2. 芸術グループの範囲について

芸術グループとして取り上げる内容について、現在の美術とデザインの分野の委員だけでは芸術という大きな括りの中では心許ないのではないかとの意見があった。そのことについて検討したところ、次のような意見があった。

- ・ 映像やアニメ、ゲーム、演劇なども芸術に含まれる。現委員でまかない切れない内容については、率直にサイバーFD 教員から意見を聴取すればよい。委員構成に限界があるため、とりあえずまとめたという形をとらざるを得ない。
- ・ 専門の技術のところ、意見があれば追加していくことになろうし、また委員の追加ということも考えることとする。

3. 今後の進め方

今回で学士力詳細は一旦決定し、今後はコアカリキュラムや到達度評価等について検討を進めることとなった。10月下旬を目標に内容を確定させることとし、そこでサイバーFD 教員に意見を求めることとする。11月には正式にリリースできるよう準備することとなった。

なお、次回委員会は、8月31日（月）午前11時より開催することとなった。